

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
05206男鹿市	③学校と家庭の課題	02 放課後等における多様な体験活動	共働き家庭の増加により、学校放課後に留守家庭で過ごす子どもが多くなっている。 本市では、放課後の安全安心な居場所として、地域の方の参入による多様な体験活動等を行う放課後子ども教室を実施している。 少子化の影響で市内に6校あった小学校が2校閉校し、地域と学校の関係が希薄になっていることから、学校と地域の連携・協働を推進していく必要がある。	地域学校協働活動推進員が学校と地域を繋ぐ橋渡し役として、様々な地域人材、資源を子どもたちと関わらせている。	地域学校協働活動推進員や、公民館・コミュニティセンターが協力し、コミュニティスクールとの連携強化を図りながら、地域住民や地域団体と学校を繋いでいく。 ・統括コーディネーターの新規配置による、地域と学校をつなぐ取組強化 ・地域団体と放課後子ども教室の共催イベントの開催。 ・学校運営協議会において、地域学校協働活動への呼びかけを行い、新たな地域人材・資源を学校と繋ぐ。	放課後子ども教室における地域の方の生涯学習スキルの活用機会を増やす。	地域人材の人数	213	人	160	188	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた 【成果】 ・統括コーディネーターの新規配置により、新規就任コーディネーターのフォローアップ体制が構築され、縦と横のつながりができた。統括からのアドバイスにより、地域人材(講師)が放課後子ども教室で活躍する機会を切れ目なく設けることができた。 ・各コーディネーターが独自のルートで、眠っている地域人材を掘り出し、子ども達にとって魅力ある教室を企画した。講師は、子どもたちのために喜んで自身の生涯学習スキルを披露してくれた。 【課題・改善点】 毎年恒例の教室と化している子ども教室が多数あり、地域講師が固定化しがち。改善策として、次年度は推進員同士が情報交換できる場を設けることで講師の固定化を防ぎ、新たな講師(地域人材)の開拓に繋がる機会を創出する。
05206男鹿市	①学校運営上の課題	01 教職員の時間外勤務の是正	教職員の働き方改革の必要性が叫ばれているなか、少子化による複式学級の発生などにより、さらに教職員の負担が増加している。 学校行事の運営や授業補助に地域の方が関わるなど、働き方改革への支援が必要である。	地域の子育て経験者を活用し、PTAや学級懇談時に学校教室を使用して児童の見守り活動を行っている。	学校行事等への地域の方の参画による教職員の負担軽減を図る。 ・学校授業補助(ミシン、郷土料理) ・クラブ活動への参画(普遊び、ニュースポーツ) ・学校行事運営への参画(PTA時の子ども見守り)	地域の方の学校行事等への参画を増やすとともに生涯学習スキルの活用機会を増やす。	地域人材の人数	64	人	116	95	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる 【成果】 ・クラブ活動(普遊び)に協力してくれる地域人材、田んぼの歌づくりができる地域人材を探してほしいと学校から相談を受け、担当推進員が地域と学校を繋ぎ人材を紹介した。 【課題・改善点】 推進員にどこまで、どんな内容で頼って良いか悩んでしまう先生がいる。年度始めの学校あいさつ回りの際に、具体例を用いながら、遠慮せず相談してほしい旨周知を強化する。